

素問の存亡

時代		
漢	① 原素問の完成	
三国時代	② 全元起本素問 (全元起による訓解や篇順の整理『黄帝素問』八卷)	
唐	③ 王冰次注本 (全元起本も参照し各篇を次し、加注『黄帝素問』)	
北宋	④ 林億らによる新校正 (校正医書局により、校正が四度行なわれ、三度の校定本『黄帝内经素問』が出された。この校定では、全元起本、王冰次注本も参照された)	
南宋	→ 北宋が金に滅ぼされ(1126年)、首都に保存されていた版本も持ち去られた。そのため、南宋では二度目の校定本(熙寧本)を覆刻して、新たに素問を刊行した(紹興本)。	
明	⑤ 顧從徳による覆刻 (太醫院御醫)	
現代		